

社外取締役メッセージ

(2021年3月31日現在)



隅 修三

豊田自動織機では、自動車関連事業とフォークリフト・物流ソリューション事業を2本柱として、電動化・自動化など、社会やニーズの変化に対応して必要な分野の強化をグローバルにはかってきました。特に、物流ソリューションの分野では、M&Aも活用しながら事業の範囲を拡大しています。M&Aは、企業が成長を加速させる有効な手段の一つですが、より実のあるものにするためには、相手企業の文化を尊重し、お互いの強み・弱みを理解して、共通のゴールを持つことが重要です。当社ではこの点を認識し順調に進めることができていると思いますが、今後はその成果の最大化をはかっていくことが課題と考えています。

また、近年は脱炭素など、環境への取り組みがグローバルで重要性を増しています。当社では従来から、環境を意識した商品開発や生産工程の改善に取り組んでいますが、今後も、ステークホルダーズが目線で社会に貢献していくことを念頭に進めることが大切だと思います。

そして、コーポレート・ガバナンスを十分機能させるためには、単にガバナンスの形態を表面的に整えるのではなく、取締役会など経営の意思決定がなされる場において議論がしっかり行われていることが重要です。当社の取締役会では、言いにくいような事でも発言しやすいオープンな雰囲気があり、今後も引き継いでほしい企業文化だと思います。私も自らの経験を活かし、活発な議論を通して経営に貢献していきたいと考えています。



山西 健一郎

豊田自動織機と三菱電機とは、多様な事業をグローバルに営んでいるという点で通じるものがあります。また、さまざまな事業部門で構成されていると、自分の領域だけが発展すればよい、という意識になる恐れもあります。

しかし当社では、各事業部や関係会社、仕入先が開発や生産を中心とした改善事例を持ち寄り、共有する「青空市場」を毎年開催するなど、切磋琢磨しながら連携を深めていこうという雰囲気があります。これは取締役会での活発な意見交換の様子からも感じますし、また、社内報を読んでも会社の風通しの良さが伝わってきます。こうした風土は、一朝一夕に築かれるものではありません。この良さを当社グループ全体で浸透・醸成させてもらいたいと思います。

中期的に当社が成長するために重要な分野の一つが物流ソリューションです。近年、eコマースの普及などに伴い物流ニーズが拡大するなか、当社は同事業の強化に取り組んでいます。今後、めざす姿を一層明確にし、シナジーの最大化をはかりながら市場の拡大をしっかりと取り込むことで、成長につなげていってほしいと思います。

分野は違うものの、私も製造業に長年携わってきました。私の成功・失敗経験も踏まえ、当社の向かうべき中長期の方向性について社外取締役として議論を深め、当社の持続的成長に寄与していきたいと考えています。



加藤 光久

豊田自動織機の社是は、社会で必要とされる商品を提供するという考え方に基づいており、祖業である繊維機械は、まさに世の中に役立つことをめざして開発されたものです。しかし、当社はそれに安住することなく、保有する技術やノウハウを活かして自動車分野、産業車両分野、物流分野と領域を広げ、バランスの取れた事業構成に変化させてきました。別の見方をすれば、繊維機械というメカニカルな商品からスタートした当社ですが、安全や品質といったモノづくりの強みを維持・改善しながら着実に電動化・自動化の対応を進めており、こうした総合力が、当社の強みになっていると思います。

世の中のトレンドや必要とされる技術が変わっても、モノづくりの基礎が重要であることに変わりはありませんが、それを支えるのは言うまでもなく「ヒト」です。今後、事業の発展をめざす中、自社のみで対応するのではなく、トヨタグループ内外の人材の受け入れや交流の強化を通じて、困難な課題にも取り組んでいってほしいと思います。

当社は、さまざまな事業をグローバルに展開していますが、取締役会においても、海外事業体から直接、現地の状況を報告してもらうなどの場を設ければ、さらに議論が活発になるのではないかと思います。世界情勢や必要とされる技術などがめまぐるしく変わる中、多様な視点を経営に活かすことで、変化に的確かつスピーディに対応し、さらなる発展を続けていくことを期待しています。